

# 2018 年度 小委員会活動成果報告

(2019 年 2 月 1 日作成)

小委員会名	視環境設計小委員会	主 査 名：原 直也 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (光環境運営委員会)	委員長名：岩田 利枝 主 査 名：大井 尚行
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな LED・OLED 時代に適合した昼光設計、明視設計や、明るさ感に基づく視環境設計の要件、評価法や設計法の課題を体系的に整理し、新たな課題については WG を設置して組織的に整備することを目的とする。</li> <li>・2015 年度:各 WG の活動内容と方針を議論する。</li> <li>・2016 年度:3 - 4 年度に設置する新たな WG で取り組むべき活動方針を議論する。小委員会及び WG の活動状況を踏まえてシンポジウムを開催する。</li> <li>・2017 年度:各 WG の活動内容と方針を議論する。</li> <li>・2018 年度:4 年間の活動を取り纏めたシンポジウムを開催する。</li> </ul>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：原 直也 (関西大学) 幹事：神農悠聖 (大手前大学) 委員：明石行生 (福井大学大学院), 秋月有紀 (富山大学), 井上容子 (奈良女子大学), 岩田三千子 (摂南大学), 大井尚行 (九州大学大学院), 奥田紫乃 (同志社女子大学), 加藤未佳 (金沢工業大学), 中村芳樹 (東京工業大学大学院), 榎 究 (実践女子大学), 望月悦子 (千葉工業大学) 吉澤望 (東京理科大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	明視設計 WG：光源の分光特性を含めた物体や空間の色の見えについて、各委員の最新の研究成果を含めて議論し、LED 照明環境下での明視設計について検討する。 輝度色度設計 WG：特に屋外環境について、視環境として質的なレベルの高い環境を実現するため、輝度・色度を測定することによって評価する方法を確立する。 明るさ感 WG：明るさ感に関連する各指標の特性や用途別の目標値などを明確にすることで、内在者にとっての視的快適性を向上させる設計へと結びつけることを目的とする。 不快グレア WG：現行のグレア評価における問題点を整理し、光源の種類によらず統一的なグレア評価方法の確立に向けた課題を把握する。	
2018 年度予算	115,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	なし
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. シンポジウム「光のスペクトル制御がもたらす新しい照明環境のあり方」 (資料名) 同上 参加者数 34 名 2. シンポジウム「空間の明るさによる照明設計：明るさ概念の整理と 平均輝度の適用性の検討」 参加者数 50 名 (資料名) 同上
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 各 WG の活動内容と方針を議論した。 2. WG 活動が活発に行われた。 3. 小委員会の成果としてシンポジウムを 2 回開催した。
委員会活動の問題点 ・課題	なし

## 2018 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・**最終年度評価**)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>視環境設計の要件、評価法や設計法の課題を体系的に整理し、取り組むべき課題についての WG を組織的に整備することができた。WG の活動を活発に行うことができ、設置計画時の想定以上の回数のシンポジウム・公開研究会を実施することができた。初年度に活動期間中のシンポジウム等の開催計画を取りまとめ、その実施に向けた活動を計画的に実施できたこと、また、いくつかのシンポジウムは他の小委員会・WG と合同企画・開催したことが奏功したと考えている。何よりも初年度設置 WG の計画に沿った活発な活動の賜物と言える。合同企画・開催のシンポジウムは、小委員会・WG 間で協働することで互いの活動の位置付けを明確にでき、また、その後の運営委員会内の組織体制の整理、再編につながるなど、良い効果をもたらしたと考えている。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。